

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
大阪総合デザイン専門学校	昭和55年3月31日	丸岡 宏次	〒530-0012 大阪市北区芝田2-8-35 (電話) 06-6376-2100																						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																						
学校法人上田学園	昭和57年3月31日	上田 哲也	〒530-0012 大阪市北区芝田2-5-8 (電話) 06-6371-2022																						
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																					
文化・教養	デザイン専門課程	ビジュアルクリエイター学科フィギュア造形専攻	平成19年文部科学省告示 第20号	-																					
学科の目的	多彩なスタイルや表現技法を学んで独自の世界を自在に表現出来、様々な分野の仕事の依頼に対応可能なイラストレーターの育成。																								
認定年月日	平成30年2月27日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
	2年 屋間		1920時間	-	1920時間	-	-	-																	
単位時間																									
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
60人の内数	6人	3人	2人	10人	12人																				
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、課題提出率、課題内容を総合評価																					
長期休み	■学年始: 4月1日～4月7日 ■夏季: 7月25日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月7日 ■学年末: 3月20日～3月31日		卒業・進級 条件	課題・試験等に合格し、本校所定の課程を修了すること																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 前期、後期に担任との個別カウンセリング 長期欠席者等には、保護者との面談、補習		課外活動	■課外活動の種類 イベント出展、コンペへの参加 ■サークル活動: 無																					
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) メーカー、ドール制作会社		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																					
	■就職指導内容 キャリア教育、就活支援セミナー、企業へのプレゼン 履歴書添削、文章作成力、個別相談、集団支援(就活倶楽部)			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数														
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
■卒業生数		6	人																						
■就職希望者数		1	人																						
■就職者数		1	人																						
■就職率		100	%																						
■卒業者に占める就職者の割合		17	%																						
■その他																									
(令和元年度卒業生に関する 令和2年5月1日時点の情報)																									
中途退学の 現状	■中途退学者 2 名		■中退率 13 %		平成31年4月1日時点において、在学者15名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者13名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 学業不振、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 個別カウンセリング(担任及び臨床心理士)、補習授業 留学生の卒業生によるサポート																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・特別学費減免支援制度・成績優秀者特待制度・入学金免除制度・自宅外通学奨学生制度・上田学園特別制度・上田学園兄弟姉妹入学制度 ・留学生支援制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																								
当該学科の ホームページ URL	http://www.oscd.jp/																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携した実習・演習授業の内容が当該学科の教育目標達成に資するものとなるように学習課題の内容を精査し、科目間の連携や授業時間配分等を考慮しつつ実習・演習授業を構成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

校長を委員長とした教育課程編成委員会を企業等の委員、校長、副校長、教務部長、各学科長、事務統括によって組織する。年間5～6回実施する学科会議(授業を担当する専任教員・兼任教員で組織)の上部に位置し、学科会議での意見、検討事項を吸い上げ、それに対し企業・業界の有識者の方々より意見を聴取、審議。委員会で審議された内容のうち、授業内容、指導方法等は学科会議で、カリキュラム編成については教務部会議で協議し、教育課程を編成する。また改善点等については教育課程編成委員会で報告する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
西野 昌克	近畿大学 文芸学部 文化デザイン学科 教授	令和2年6月28日～ 令和4年6月27日 2年(再任あり)	②
廣瀬 勇一	株式会社ロイスエンタテインメント 代表取締役	令和2年6月15日～ 令和4年6月14日 2年(再任あり)	③
丸岡 宏次	大阪総合デザイン専門学校 校長		
原田 明彦	大阪総合デザイン専門学校 副校長		
中森 康夫	大阪総合デザイン専門学校 ビジュアルクリエイター学科 学科長		
三浦 康男	大阪総合デザイン専門学校 ビジュアルクリエイター学科 フィギュア専攻 リーダー		
嶺 寿美江	大阪総合デザイン専門学校 教務部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 10月及び3月頃

(開催日時)

第1回 令和元年11月11日 14:00～15:30

第2回 令和2年2月10日 13:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

授業を担当する全ての講師陣が出席する学科会議で課題を抽出し、教育課程編成委員会において企業・業界・学識者で構成される委員の方々の意見を聴取し、それをもとに学科の教育目標、育成人材像について検討し、業界のニーズにあったカリキュラムを策定し、実践している。
・卒業後、フリーの作家として活動していくためには、セルフプロデュース力が必要というご意見を受けて、2年次の授業の「プロモーションテクニック」の内容を見直した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携した実習・演習授業の内容が当該学科のカリキュラムに即したものとなるように学習課題の内容を精査し、授業時間配分等を考慮しつつ実習・演習授業を構成する。実際の企業からの受注、制作過程、納品までのプロセスを体得させることを目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業側がオリエンテーションで制作物の用途、展開を詳しく解説し、学生に周知徹底する。制作過程のチェックを教員だけでなく、企業と共に行うことで、実際に使用する販促物として通用するレベルまで完成度を上げさせる。企業と交渉していく過程において、印刷用イラストレーションの作業工程、企業の要望を的確に把握し、作品に仕上げるためのコミュニケーション能力を体得させる。企業の評価を1課題の評価として組み込み、科目の担当教員が総合的に評価する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
造形実習Ⅰ	物の形をとらえる力を身につけるという目標に向けて、一段目から順にステップを踏んでいく。まず、立体制作に使われる主な素材と道具に触れ、それらの基本的な扱い感覚を習得すると共に、実際に立体造形物(フィギュア)を制作する。具体的には静物、人体等のモチーフの立体デザインを試みる。それと共に課題制作物を主にシリコン複製成型成型を中心とした成型法の確実な習得を目指す。	株式会社メガホン
造形実習Ⅱ	1年次に引き続き、物の形をとらえる力を更に身につけるという目標に向けて、立体写生を中心に授業を構成する。具体的には静物、人体等のモチーフの正確な拡大写生方法の考え方や、レリーフ制作のテクニック習得を視野に入れた課題を行う。また、課題制作に伴う、シリコン複製成型法の確実な習得を目指す。企業との連携関係が生じた際、積極的にプロジェクトに取り組んで行く。	株式会社メガホン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の研修規程に基づき、新任～3年目の教員は、指導力向上のため、大専各主催の「新任教員研修」若しくは「人権研修」を受講させる。専門分野については、関連企業・業界団体の研修・イベントに参加させ、最新知識・技術の習得を図ることを基本としている。また可能な限り、講師等の関連企業にて現場実習を実施している。クラス担任を担当する教員には、近年増加傾向にある精神的疾患及び発達障がいの問題を抱える学生の指導のため、臨床心理士等による研修会を実施。各教員に専門分野・業界の動向を踏まえ、研究内容の拡充、研究成果の公表、授業への反映に努めるよう求めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

・10月5日 対象:フィギュア専攻教員1名、講師1名
ハリウッドで活躍しているアーティスト「AKIHITO氏」を招喚し、ライブ制作を伴う特別講習を開催。最新技術の修得、スピード感を体感し、海外の業界に関する研修を行った。当該専攻で指導している造形力に直接的に関わる内容であり、専門分野における指導力の向上を図った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・4月19日 「クラス担任と臨床心理士の事例検討会」 対象:クラス担任1名
学生カウンセリングを担当している「カウンセリングオフィス五月山の臨床心理士、八木美佳先生」に新入生、在校生で発達障がい、その他のメンタル面での問題を抱える学生に対する対応、及び指導方法につき、事例検討を実施。担任のカウンセリング力の向上と担任自身のメンタル面での負担の軽減を図った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

・11月30日(月) 対象:イラストレーション専攻教員2名講師1名
ハリウッドで活躍しているアーティスト「カタキリヒロシ氏」を招喚し、講演会並びにライブ制作を行うことで、最新技術の修得、海外の業界に関する研修を行う。当学科で指導している立体イラスト、イラスト表現実習に関わる内容であり、専門分野における指導力の向上を図る。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名 「『気になる学生への支援』講演会」(連携企業等:常盤会学園大学、山田義則先生)
期間:11月20日(金) 対象:専任教員4名 講師5名
新入生、在校生で発達障がい、その他のメンタル面での問題を抱える学生に対する対応、及びコロナ禍でのうつ傾向・不安症状等に対するケアにつき、事例を交えた講演会を実施予定。カウンセリング力の向上と教員自身のメンタル面での負担の軽減を図る。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員として、卒業生の代表である同窓会長、卒業生を継続的に多数採用頂いている企業代表者に加え、地域産業の振興に関する知見者が、学校関係者として「学校関係者評価委員会」に参画し、其々の立場から学校自己評価に対して評価を行う。また学校関係者評価委員から出された意見を基に、今後の学校運営・教育活動の改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	・運営方針、事業計画は定められているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	・各学科の教育目標、人材育成像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向付けられているか ・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
(4) 学修成果	・就職率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか
(5) 学生支援	・就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか ・学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか

(11)国際交流	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか
----------	-----------------------------

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員から拝聴したご意見等をもとに、学校自己評価体制の整備、並びに各部署で今後の学園・学校運営の改善に活用している。

・教育設備、特にIT化の充実を図るため、新入生にPCを購入させ、学内外で自学自習が可能なようにWi-Fi環境を充実させて、教育環境の向上を図った。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
井村 良裕	オフィス・トライアド井村アトリエ 代表	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日 2年(再任あり)	卒業生
鵜飼 隆	有限会社タイトルアート 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日 2年(再任あり)	企業等委員
廣瀬 勇一	株式会社ロイスエンタテインメント	令和元年8月6日～ 令和3年8月5日 2年(再任あり)	企業等委員
飯田 俊子	元(公財)大阪観光局 常務理事	令和元年6月8日～ 令和3年6月7日 2年(再任あり)	地域及び 業界有識者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 令和元年9月公開

URL:<http://www.uedagakuen.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

HP上の「企業の方へ」のページに情報を記載すると共に、年2回(5月、10月)求人依頼をする際に「求人のお願い」という冊子を、2月には成果発表となる作品展のご案内を計6000社に郵送している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校について 教育コンセプト 沿革
(2)各学科等の教育	学科・コース クリエイティブ学科
(3)教職員	学校情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア・就職
(5)様々な教育活動・教育環境	学科・コース 施設設備
(6)学生の生活支援	学校情報
(7)学生納付金・修学支援	学費 学費支援制度
(8)学校の財務	財務諸表
(9)学校評価	学校自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

学校及び学園のホームページ URL:<http://www.oscd.jp/> URL:<http://www.uedagakuen.ac.jp/>

補足事項・学校案内パンフレット

授業科目等の概要

(デザイン専門課程ビジュアルクリエイター学科フィギュア造形専攻)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		デッサン	物をみる（観察する）、かんじる、考える（分析・構想する）、あらわす（表現する）という創作者としての内なる基本を学ぶ。具体的には様々なモチーフ（静物、人物、風景など）を目で見て観察し、頭で考え分析・構想し、手によって描き・表現するといったそれら繰り返しの中で、自分の中の循環を高める。	1通	120	4	△	○		○		○		
2	○		造形演習	全てのモノは立体でできている。様々な素材で、手を動かしながら立体作品を作ることを通して、基礎造形力を高めてもらう。主に演習形式で学ぶ。	1後	60	2	△	○		○		○		
3	○		コンピュータ演習	Windowsコンピュータの基本操作と2次元グラフィックソフトウェア Adobe Illustrator 及び Photoshop のオペレーション習得とイラストレーションの作成、画像処理、DTPレイアウトの基本を理解する。また、自身の造形制作作業を記録し SNS などを使って対外的に発信していく。特別講義として「著作権法」についての理解を深める。	1通	120	4	△	○		○		○		
4	○		キャラクター造形実習	ゲームやアニメーションなどのキャラクターをモチーフに、造形のテクニックを学ぶ。資料から情報を読み取る力を養い、原型の制作や型取り、模型の塗装などトータル的に実習を中心に授業をおこなう。	1前	60	2	△	○		○			○	
5	○		デジタル・キャラクター造形実習 I	Zbrush を使用し、ゲームやアニメーションなどのキャラクターをモチーフに、デジタル造形のテクニックを学ぶ。資料から情報を読み取る力を養い、原型の制作や 3D プリントからの型取りを見据えたモデリングの実習を中心に授業をおこなう。	1後	60	2	△	○		○			○	

6	○		モデリング I	物の形をとらえる力を身につけるという目標に向けて、一段目から順にステップを踏んでいく。まず、立体制作に使われる主な素材と道具に触れ、それらの基本的な扱い感覚を習得すると共に、実際に立体造形物(フィギュア)を制作する。具体的には静物、人体等のモチーフの立体デッサンを試みる。それと共に課題制作物を主にシリコン複製型成型を中心とした成型法の確実な習得を目指す。	1通	120	4	△	○	○	○	○
7	○		写真技術	クリエイターの必須道具としての『カメラ』の活用法にはじまり、ビジュアル表現の重要要素である『写真』の基礎を学習する。また画像データの管理などのデジタル写真の基礎も学習する。	1前	60	2	△	○	○	○	○
8	○		塗装テクニック I	フィギュアの塗装の方法を基礎から実習し、修得していく。下地作りからマスキング作業、ハンドピースによるブラシワークから、筆塗りによる細部の塗装に至る作業を、塗装の特性を知ること、ラッカー系塗料から水性塗料を使い分け仕上げていく。	1後	60	2	△	○	○	○	○
9	○		人体造形技術演習 I	主に人体造形の基礎知識として(デッサンバランス、アナトミー的ポイント)を押さえて、授業では資料や人体模型などを使用して解説していく。	1通	120	4	△	○	○	○	○
10	○		デジタルモデリング実習 I	Zbrushという3DCGソフトを扱い、実際の仕事の現場で必要となるデジタルデータの作り方やその違いについての基礎を課題を通じて学ぶ。	1通	120	4	△	○	○	○	○
11	○		デジタル・キャラクター造形実習 II	ゲームやアニメーションなどのキャラクターをモチーフに、2年次は更に実践的なテクニックを学ぶ。	2通	120	4	△	○	○	○	○
12	○		モデリング II	1年次に引き続き、物の形をとらえる力を更に身につけるという目標に向けて、立体写生を中心に授業を構成する。具体的には静物、人体等のモチーフの正確な拡大写生方法の考え方や、レリーフ制作のテクニック習得を視野に入れた課題を行う。また、課題制作に伴う、シリコン複製型成型法の確実な習得を目指す。企業との連携関係が生じた際、積極的にプロジェクトに取り組んで行く。	2通	120	4	△	○	○	○	○

13	○		塗 装 テ ク ニ ッ ク Ⅱ	1年時授業での内容を発展させ、より立体的に、より質感を表現する高い技術を習得する。既存のフィギュアのリペイントからサフレス塗装を中心に様々な表現技術を身につける。また卒業制作作品のデコレーションマスター、完成見本やパッケージのイメージとして使用できるよう高い完成度を目指す。	2 通	120	4	△	○	○	○	○
14	○		ク ロ ッ キ ー & ド ロ ー イ ン グ	作品制作をする場合、対象の構造を踏まえ動作・動勢を瞬時に把握する能力と継続して対象を見る観察力が必要です。描く中で対象の本質に迫り、自由に作画できる描写力を養う。	2 通	120	4	△	○	○	○	○
15	○		プ ロ モ ー シ ョ ン テ ク ニ ッ ク	自身をプロモーションするための方法やスキルの修得。情報を伝達するためのアプローチからデジタルツールを使ったレイアウトの応用や細部にこだわった見せ方、自身の作品の解説方法等を実習を通じて理解し実践する方法を学ぶ。パッケージのデザインレイアウトや名刺、ポートフォリオから展示用の解説ツールなど見やすくデザイン・レイアウトできるようになる事を目標とする。	2 通	120	4	△	○	○	○	○
16	○		制作実習	6cm前後のマスコットフィギュアと20cm前後のスケールフィギュアの制作。原型・分割・磨き・複製・塗装まで一通り習得。イベント参加・発表・販売する商品レベルを意識し、プロで通用する力を養う。	2 通	120	4	△	○	○	○	○
17	○		人 体 造 形 技 術 演 習 Ⅱ	1年次で習得した人体制作のスキルアップを目的とした人体造形を制作。より人体構造を理解することを目的とする。卒業制作、イベント参加を兼ねた制作では原型制作、型取り、複製、組み立て、塗装、展示ディスプレイ、パッケージまでの一連の流れを実習課題とする。	2 通	120	4	△	○	○	○	○
18	○		デ ジ タ ル モ デ リ ン グ 実 習 Ⅱ	Zbrushを使用してデジタル原型を制作する工程を学び、各自が3Dプリンターを使って作品を出力する。また出力後に原型として使用できるデジタルデータの作り方を学ぶ。	2 通	120	4	△	○	○	○	○
合計				18科目	1920単位時間							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
課題・試験等に合格し、本校所定の課程を修了すること	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。